

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp



研修講座 B-4 生徒指導① を実施しました！

「『生徒指導提要』（改訂版）が示すこれからの生徒指導の方向性」

【講師】 関西外国語大学 教授 新井 肇 先生

6月21日（金）、講師に関西外国語大学教授の新井肇先生をお迎えし、研修講座「生徒指導①」を実施しました。

はじめに、「児童生徒を取り巻く環境が大きく変化し、不登校、いじめ、暴力行為等が増加傾向にある。児童生徒が抱える課題の深刻化がみられることから、これからの生徒指導を学校・教職員がどう進めていくかが問われている。」という話があり、われわれ教職員の課題として突きつけられていることであると感じました。これらの課題解決のヒントとなるのが、生徒指導提要（改訂版）が示す生徒指導の方向性であり、講義では、大きく3点についてご指導いただきました。

1点目は、全ての児童生徒を対象に成長・発達の過程を支える発達支持的生徒指導です。日々の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけが大切であり、日常的な教育活動を通して働きかけを行うこと。

2点目は、学習指導と生徒指導の一体化です。教室での「教科の学び」に生徒指導実践上の視点（→自己存在感の感受への配慮、共感的人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を意識して組み込んでいくこと。いい授業（わかりやすい授業）には、この視点が自然と組み込まれている、ともお話されていました。

3点目は、「チーム学校」による生徒指導体制の構築です。学校内では学年・校務分掌を横断する生徒指導体制、学校外では関係機関との連携強化（顔の見える関係）を構築していくこと、家庭や地域の学校運営への参画（社会に開かれた生徒指導）を進めていくこと。

これらの3点はどれも大切ですが、特に教職員自身が1人で抱え込まないこと、このメンバーなら話することができるという安心感を学校全体として作ることが協働的で実効的な指導・相談体制として機能することにつながると感じました。

本講座で学んだことを各校・園で還流していただきますようよろしくお願いします。

アンケートより 【一部抜粋】

・生徒指導を進めていくにあたっては、重大なことが起こらないためにも職員室での風通しの良さが重要だと思いました。忙しいことを理由にはいけませんが、共有する時間をとれていなかったと思うので、何でも話して相談して何でも聞きますよという気持ちを持っていきたいです。

（小）

・法や国の施策にただ従うだけではなく、その背景に社会がどう変化しているのか、どんな社会に子どもが生活しているのかなどを注視することが大切だと感じました。また、改めて日々のコミュニケーションの大切さを感じる一方、全ての生徒とコミュニケーションをとるだけの時間がない現状があることに課題を感じました。限られた中で、明日から意識していきたいことは、会話の中で子どもに“気づき”を与え、自らの行動をよりよいものにしていけるよう努めていきたいです。（中）

